

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム野の花 一棟		
所在地	長崎県島原市江里町乙2346番地1		
自己評価作成日	令和1年 12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和2年1月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気軽に訪問しやすい環境を心掛け、ご家族や見学者の方に来ていただけるようオープンにしております。地域の方々と接点を持つことを心掛け、避難訓練や餅つき、鬼火などイベントを開催しており、小学校との交流も定着しており、授業の一環として組み込まれ、学生の実習施設として認識されています。

法人内でも地域のイベントなどにも参加し、地域の方々や同業者や医療関係の方々とも交流を深めるよう心がけております。

施設においては、ユニットごとに飾り付けや担当を決めユニットでの特色なども出していけるよう入居者様と一緒に活動や制作に取り組んでいます。

緑に囲まれた敷地内では羊や鯉を飼い、利用者の癒しとなっている。法人の理念を基に、事業所の介護目標「安・心・感」に沿った4項目の方針を掲げ、達成に向け全職員で取り組んでいる。小中学生の福祉体験受け入れや談話室を地域に開放したり、新聞での広報活動を行っており、地域と共生する姿勢が窺える。いち早く介護ソフトを導入し、ペーパーレス化を図ると共に実践状況の把握に活用している。医療面では、かかりつけ医の通院支援や訪問看護師による医療連携体制があり、本人・家族の安心に繋がっている。利用者の支援について、法人全体で統一事項を定め標準化を図っており、介護の質の向上に対して常に意識を高く持っていることがわかる。職員も共に喜び、笑い、利用者の誇りを大切に支援を行っている事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を原点として取り組んでいる	毎年介護目標を作成している。4項目の具体的な方針の目標達成に向け、全職員で取り組み、毎月の会議で振り返り、浸透を図っている。職員は利用者と共に“ありがとう”と感謝の言葉を伝え合い、日々を笑顔で過ごし、利用者には“ここで良かった”と言って貰えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など積極的に参加している。また、鬼火など地域の方々にも呼びかけを行い参加して頂いている。	小中学生の職場体験の他、運動会への招待を受けたり卒業記念品を渡したりと双方向の交流がある。ボランティアのバンドの訪問の他、談話室を地域に開放する等、行事に積極的に参加しており、地域に根差した事業所となっている。近隣とは年末年始の挨拶を行い、良好な関係性が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や活動など、利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ノームでの取り組みや利用者の生活上場などを議題に取り入れている。また、会議の議事録は玄関にファイルを設置し閲覧できるようにしている。	市町村担当者、民生委員、家族代表で開催している。利用者状況や行事報告、身体拘束廃止の取り組みや避難訓練など報告があり、欠席者には議事録を送付している。議事録は透明性が窺える。ただし、参加者が少なく、固定化され、報告が主となっている。	家族や地域知見者に参加を呼び掛け、メンバーを増やすとともに、意見やアイデアをサービス向上に活かす取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との交流は常に多くもち、協力関係は出来ている。	更新手続きや事故報告など、管理者が市町村窓口を訪れている。その他、運営上の疑問点を電話で尋ねたり、直接窓口を訪問し相談しており、行政担当者から多くの情報や助言を得ている。市主催の基礎研修講座を受講するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は元は施錠せず、自由に出入りが出来るようにしている。また、身体拘束に関する研修や勉強会を行い、全職員が理解したうえで取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。	管理者や主任が身体拘束廃止委員となり、法人にて毎月委員会を開催している。職員は、虐待や言葉遣いや接し方の勉強会を行っている。虐待の芽チェックシートやDVDを活用し、何が拘束にあたるかを理解している。昼間は玄関を開錠しており、全職員で拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会などを設けて行っている。また、職員間の声かけや利用者の観察を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ期間を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約時に十分な説明を行い、質問なども受けている。家族の理解や納得された後に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は希望者にはラインで近況報告などを行っている。必要であればその都度話し合いの場を設けるようにしている。また、介護ミーティングにて話し合い、解決策を見出している。	入居時に苦情解決の仕組みについて、説明を行っている。家族の面会時には湯茶を呈する他、会話の中で要望を聞き取っている。メール等を活用している家族もいる。寄せられた要望は、連絡帳に記載し、職員間で共有を図っている。事業所の情報を発信するため、玄関にタッチパネルを備え付けるなど工夫が見てとれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や法人職員との親睦会などを通じて意見を聞く場を設けている。年に2回自己評価にても面談を行っている。	各種行事は、職員が立案している。高額の商品購入は本部決済のルールがある。職員は、業務に関して自ら目標を定め、半期に一度の管理者と面談の際、達成度を確認し合っている。管理者は、本人に適した資格取得や研修受講について助言を行っており、人材育成の仕組みが確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施や法人内外の勉強会にて各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アプリにて職員に介護技術を提供し技術向上を行っている。研修会への受講は、各自の力量に応じて進めている。受講の際には勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原市GH連絡協議会やリハビリネットワークなどの勉強会や懇親会の機会をもち、最新の情報収集を得ながらレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談の時より、本人とも何度も面談し意見を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の時より、家族とも何度も面談し意見を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の軽い方が多いので、状況に応じ昔ながらの方法を教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も常に家族と話し合いながらともに支援していくよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊、外出など本人や家族の希望に応じて職員が同行したり個別の対応を行っている。	家族の他、習いごとの仲間等が訪れている。正月に外泊、外出する利用者の他、毎週帰宅している利用者もいる。冠婚葬祭には、家族と共に出席している。職員は、電話の取次ぎを行ったり、年賀状投函を手伝っている。正月には、初詣や書初め、春には島原初市へ出掛けたりと入居前の習慣を大切にする支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動などを通じて利用者間でのコミュニケーションが取れるよう支援している。また、必要に応じ職員が間に入ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所されても面会などに行き、今後の方向性などについて家族や医療関係者とも面談を行い、継続的な関係を保つよう心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人の希望や要望などをくみ取り、個々に合った生活ができるよう検討している。	職員は、利用者がリビングで寛いでいる際に思いを聞き取ることが多い。難聴の人にはマスクを外して耳元に話し掛けている。聞き取ったことは、日誌に記録し、職員間で共有している。レクリエーションへの参加は強制せず、居室で休みたい人の意向を尊重している。生活歴は1年に1度更新している。晩酌や喫煙の習慣も尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中でその人らしさを考えたり、家族より聴取したりして、現在に至るまでの生活歴も把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の生活の様子観察にて総合的に把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分取り入れている。また、全職員がいつでも閲覧できるようファイリングし、期間終了前には介護ミーティングなど見て見直しを行っている。	契約時は、本人や前施設からの情報を得て、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。毎週、介護ミーティングにて課題を検討しており、見直しに役立てている。目標や実践状況は、パソコンを活用しわかりやすい。計画は、家族の意面会時や電話で聞き取り、了承を得て実践している。状況が変化した際は、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はもちろんの事、日誌や申し送りなどを通じて情報の共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要な状況に応じ柔軟に支援するよう心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内外のネットワークを活用し、安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、医療機関との連携を図っている。	職員が本人・家族が希望するかかりつけ医を通院支援している。検査時は家族も付き添っている。毎週、訪問看護師は利用者の健康管理を行い、急変時は主治医との連携を図っている。薬の情報は、申送りノート等にて共有している。緊急時の対応についてマニュアルを整備し、内部研修を実施して職員への周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員を中心に訪問看護によって健康管理は十分に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、随時面会し医療関係者との情報交換や相談などを行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や本人、家族、関係者との話し合いのうえ、方向性を検討している。	契約時に「看取りに関する指針」をもとに、医療行為を伴う場合や家族の協力無くしては、看取り支援を行えない旨、家族に説明している。本人の状況変化時、主治医との話し合いにて「看取り介護について」の同意書を得ている。終末期は家族の思いに寄り添い、事業所でできる限りの支援を行い、設備が整った施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを周知させたり、緊急時の対応などの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の総合訓練の実施(うち、1回は消防署立ち合い)や毎月のスタッフミーティングで年間の計画に沿って災害にたいしての意識を高めている。	年2回の総合火災訓練の内、消防署立会いと自主訓練を昼間想定で実施しており、発生場所毎に多方向経路での避難誘導を行っている。その他自主夜間想定訓練を1回実施している。毎月、災害全般のテーマに沿った勉強会がある。近隣に住む職員や消防団に属する法人職員の協力体制がある。備蓄と非常持出品を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心がけている。また、プライバシーや守秘義務は守るよう徹底している。	法人全体で、プライバシー保護や倫理規定に関する研修を実施している。職員に対して、介護に関する話を利用者本人の前でしないこと、業務中は携帯電話の使用禁止等の指導を行っている。写真の掲載に対しては、家族から書面での同意を得た場合のみとしている。共用トイレにパッド類もなく、羞恥心への配慮が窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい方でも、生活の中での思いや希望などを理解し、自己決定ができるよう支援するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを基本に、本人の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は本人が選んだ服を着用し、夜間はパジャマに着替えている。入浴後には保湿剤を付けて頂いている。イベント等には、普段よりおしゃれして参加して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。また、食事の際には職員も一緒に食卓に着き、会話をしながら楽しく摂取できる状況を作っている。	ご飯と汁物以外は、外部業者へ委託している。嗜好調査を行い、代替食にも対応している。法人全体で給食会議にて要望を伝えている。季節毎の行事食も充実しており、事業所の夏祭りでは屋台でたこ焼き等を食べたり、家族と定期的に外食に行く利用者もいて、食事を楽しむことができるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をとることで、状態観察を行っている。また、食事以外にも水分補給や夜間の水分の提供なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。義歯は毎日洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望の方のみ夜間オムツ使用であるが、日中はリハビリパンツを使用し、定期的なトイレの声掛けを行い、自立に向けた支援をおこなっている。	日中はトイレでの排泄を基本としている。居室にトイレがあり、利用者の負担が少ない環境で排泄の支援ができています。職員はパッドの種類を細かく検討しており、布パンツへ改善した事例がある。内部研修で、メーカーの担当者によるおむつ交換の仕方やパッドの使い分け方を学び、利用者の負担をより軽くするよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	館外の散歩やアクティビティへの参加など適度な運動を行っている。また、夏場は水分補給にかき氷なども提供したり、アクエリアスなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間など、体調や希望を伺いながら対応している。	基本的に週3回の入浴を支援している。介護度の重い利用者であっても、浴槽に浸かり寛げるよう職員2名で介助している。入浴日以外は清拭を行っている他、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を感じる工夫を行っている。敏感肌の人には、保湿クリームや専用のシャンプーを使用して、個別のケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や用法を把握し変更があった際には副作用にも十分気をつけ、症状の変化があれば主治医に相談している。薬剤師にも相談でき、アドバイスなどをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人一人の生活歴や力量に応じて、役割分担を決めている。また、外出やレクリエーションなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば敏速に対応するよう心がけている。正月などの行事は、家族の協力のもと、外出や外泊の支援を行っている。	天気の良い日は、ウッドデッキで日光浴したり、車椅子の利用者も広い事業所の敷地内を散歩している。毎週買い物支援の日を定め、近隣の商業施設へ出掛けている。また、春は敷地内で花見を行い、秋はコスモスや紅葉の名所、冬はイルミネーション見物と季節毎に利用者の楽しみとなる外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由。希望があれば代筆も行っている。 遠方の家族には、写真などを添付してラインなどで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や外出や行事の時の写真を貼り出したりして、明るく家庭的な空間を出すような心がけている。	玄関には、事業所紹介を収めたタッチパネル機器や職員紹介掲示があり、整然としている。利用者は、リビングの飾り付けやウッドデッキからの風景で季節を感じている。またレクリエーションに興じたり、職員と談話するなど楽しんでいる様子が窺える。職員による毎朝の清掃や温度管理、床は定期的なワックス掛けにて清潔な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっている、一人の空間が保たれている。また、共同の空間でも他者とのコミュニケーションが取れるよう、利用者の個々の思いを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具や生活用品の持ち込みは自由としている。	居室にはトイレがあり、利用者の動線に合わせてベッドの位置を決めている。利用者が感うことがないよう馴染みの物を設置している。位牌やテレビ、筆筒やテーブルを配し、写真や化粧品、髭剃りなど利用者の必要な物を揃えている。濡れタオルを掛け、乾燥に配慮している。職員による清掃で、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策は十分留意し、自立して生活が送れるような工夫をしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム野の花 二棟		
所在地	長崎県島原市江里町乙2346番地1		
自己評価作成日	令和1年 12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気軽に訪問しやすい環境を心掛け、ご家族や見学者の方に来ていただけるようオープンにしております。地域の方々と接点を持つことを心掛け、避難訓練や餅つき、鬼火などイベントを開催しており、小学校との交流も定着しており、授業の一環として組み込まれ、学生の実習施設として認識されています。  
法人内でも地域のイベントなどにも参加し、地域の方々や同業者や医療関係の方々とも交流を深めるよう心がけております。  
施設においては、ユニットごとに飾り付けや担当を決めユニットでの特色なども出していけるよう入居者様と一緒に活動や制作に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を原点として取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など積極的に参加している。 また、鬼火など地域の方々にも呼びかけを行い参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や活動など、利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ノームでの取り組みや利用者の生活上場などを議題に取り入れている。また、会議の議事録は玄関にファイルを設置し閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との交流は常に多くもち、協力関係は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は元は施錠せず、自由に出入りが出来るようにしている。また、身体拘束に関する研修や勉強会を行い、全職員が理解したうえで取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会などを設けて行っている。また、職員間の声かけや利用者の観察を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ期間を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約時に十分な説明を行い、質問なども受けている。家族の理解や納得された後に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は希望者にはラインで近況報告などを行っている。必要であればその都度話し合いの場を設けるようにしている。また、介護ミーティングにて話し合い、解決策を見出している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や法人職員との親睦会などを通じて意見を聞く場を設けている。年に2回自己評価にても面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施や法人内外の勉強会にて各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アプリにて職員に介護技術を提供し技術向上を行っている。研修会への受講は、各自の力量に応じて進めている。受講の際には勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原市GH連絡協議会やリハビリネットワークなどの勉強会や懇親会の機会をもち、最新の情報収集を得ながらレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談の時より、本人とも何度も面談し意見を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の時より、家族とも何度も面談し意見を聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の軽い方が多いので、状況に応じ昔ながらの方法を教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も常に家族と話し合いながらともに支援していくよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊、外出など本人や家族の希望に応じて職員が同行したり個別の対応を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動などを通じて利用者間でのコミュニケーションが取れるよう支援している。また、必要に応じ職員が間に入ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所されても面会などに行き、今後の方向性などについて家族や医療関係者とも面談を行い、継続的な関係を保つよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人の希望や要望などをくみ取り、個々に合った生活ができるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中でその人らしさを考えたり、家族より聴取したりして、現在に至るまでの生活歴も把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の生活の様子観察にて総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分取り入れている。また、全職員がいつでも閲覧できるようファイリングし、期間終了前には介護ミーティングなど見て見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はもちろんの事、日誌や申し送りなどを通じて情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要な状況に応じ柔軟に支援するよう心がけている。		

グループホーム野の花 二棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内外のネットワークを活用し、安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、医療機関との連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員を中心に訪問看護によって健康管理は十分に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、随時面会し医療関係者との情報交換や相談などを行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や本人、家族、関係者との話し合いのうえ、方向性を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを周知させたり、緊急時の対応などの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の総合訓練の実施(うち、1回は消防署立ち合い)や毎月のスタッフミーティングで年間の計画に沿って災害にたいしての意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心がけている。また、プライバシーや守秘義務は守るよう徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい方でも、生活の中での思いや希望などを理解し、自己決定ができるよう支援するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを基本に、本人の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は本人が選んだ服を着用し、夜間はパジャマに着替えている。入浴後には保湿剤を付けて頂いている。イベント等には、普段よりおしゃれして参加して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。また、食事の際には職員も一緒に食卓に着き、会話をしながら楽しく摂取できる状況を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をとることで、状態観察を行っている。また、食事以外にも水分補給や夜間の水分の提供なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。 義歯は毎日洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望の方のみ夜間オムツ使用であるが、日中はリハビリパンツを使用し、定期的なトイレの声掛けを行い、自立に向けた支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	館外の散歩やアクティビティへの参加など適度な運動を行っている。また、夏場は水分補給にかき氷なども提供したり、アクエリアスなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間など、体調や希望を伺いながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や用法を把握し変更があった際には副作用にも十分気をつけ、症状の変化があれば主治医に相談している。薬剤師にも相談でき、アドバイスなどをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人一人の生活歴や力量に応じて、役割分担を決めている。また、外出やレクリエーションなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば敏速に対応するよう心がけている。正月などの行事は、家族の協力のもと、外出や外泊の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由。希望があれば代筆も行っている。 遠方の家族には、写真などを添付してラインなどで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や外出や行事の時の写真を貼り出したりして、明るく家庭的な空間を出すよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっている、一人の空間が保たれている。また、共同の空間でも他者とのコミュニケーションが取れるよう、利用者の個々の思いを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具や生活用品の持ち込みは自由としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策は十分留意し、自立して生活が送れるような工夫をしている。		